



11 日本という国「江戸時代の世界は？」

日本を見つめ直し、楽しく生活、仕事しましょ、シリーズ。

日本の江戸時代の前の戦国時代、ヨーロッパでは、長いイスラムの驚異から開放されたスペイン・ポルトガルが、他のヨーロッパ諸国に先んじて中央集権国家を確立し、イスラムから得た羅針盤の技術により大規模な外洋航海を始めます。鉄砲の圧倒的な力を使い、先住民族の虐殺、金銀等の資源の略奪、奴隷貿易が始まり、膨大な富を得るようになりました。

その後、遅れて中央集権国家を確立した他のヨーロッパ列強国は、お互いの覇権をかけて争い、その影響が社会的変化を促進していきました。

江戸時代は1603年から1868年までの265年間とされますが、ヨーロッパの覇権をかけた長く激しい争いは、各国の消耗を招き、次第に宗教勢力の権力に裏打ちされた王権に疑問が生じ、特に西ヨーロッパで1642年、清教徒革命により、既存の宗教勢力の弱体化、政教分離、王権の制限という流れがはっきりしました。これによって、民主政治の芽生え、君臨するが統治せずという、現在の立憲君主制が広まりました。1789年フランスでは革命が起こり王権が倒されるに至ります。

※日本ではすでに聖徳太子により、君臨するが統治せずという伝統がつくられており、織田信長によって政教分離は完成されていました。

宗教の呪縛から放たれたことにより科学技術が芽生え、1633年ガリレオガリレイの地動説、1661年ニュートンの万有引力の発見、1680年ライプニッツの微積分法、等化学技術に関する発展が則され、特に1760年頃からイギリスで始まる産業革命による機械工業の発展は、現代に至る金融支配を含む社会構造を作り、その圧倒的な技術的優位、金融的優位、武器の優位は、1776年に独立したアメリカを加えた西洋列強の世界の植民地化が進みました。

これは実質的に第二次世界大戦が終わるまで続きました。

以上のように、世界は大変化がおこっていましたが、現在の主要な国のなかで唯一、日本だけが江戸時代の末期まで、他の強国の軍事的影響を受けず長い平和のなかで、権力者が貧しくなり、町民、農民が豊かになり、庶民文化が花開くという、世界史でも奇妙なことがおこっていました。

当時の世界では驚異的な識字率を持ち、農民にまで及ぶ算学の流行に代表される庶民の知的レベルの向上、細分化された職人の技術水準の向上、商業道德の確立、商業の発達による為替・手形などの金融の発展など、明治維新の時、アジアで唯一西洋化を成功させる基盤がすでに整っていました。

また現在に至る日本人のさまざまな道德観、文化を形成する文明の進化がおこっていました。

※幕末の西洋の一番識字率が高かったと言われるのがイギリスの大都市部で25%、パリ10%未満と言われますが、江戸の識字率は70%を超えていたと言われています。

当時日本全土で藩校を除く寺子屋と私塾だけで16800以上があり、日本人が学ぶ欲求が強い民族であったことが分かります。

